

川越市消防団だより

第一号

消防団長あいさつ

川越市消防団 団長の貫井達也です。

今号より、広報誌「虹のまち」で川越市消防団だよりを年1回掲載させていただきますことになりました。



川越市消防団長 貫井達也

また、台風や集中豪雨の時には、河川の状況確認、氾濫や堤防の決壊などが起きないように土の積みなどの活動も行います。

災害から市民の皆様の生命、身体、財産を守るための活動を行う消防団ですが、消防団を取り巻く環境は社会構造の変化にとめない、団員の高齢化、サラリーマン団員の増加、団員確保など大変厳しい状況にあります。

このような状況下、当消防団の将来像を見据え「災害対応力のある組織の確立」「消防団の施設・装備の充実」「消防団員の確保と処遇改善」「教育と訓練の充実」「地域との連携」の活動指針のもと、災害時の消火・救助活動を始めとして平時における防火広報活動、消火救助訓練、出初式、特別点検などを行っています。

「住むことに誇りを持ち、住んでよかったと思えるまち 川越」のまちづくりに貢献して参りますので消防団活動に對しまして市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

地域防災の担い手である川越市消防団は、普段はサラリーマンや自営業・農業など仕事を持つかたわら、消防団活動を行っています。

いざ火災などの災害が発生すると、消防署から担当地域の分団長に緊急連絡が入り、分団車庫に参集し、災害現場に向かいます。建物火災の場合、隣接の2つの分団も駆けつけ、消火活動や後方支援など行います。



喜多院での文化財防火訓練



水防演習にて団員集合

活躍する女性消防団員

女性消防団員は、防火広報活動の強化のため、平成16年4月1日に採用され活動を開始しました。

女性の優しさ、思いやり、きめ細やかさを最大限に発揮して、市民の皆様と接することを心がけています。

活動内容は、AEDの使用法を含む心肺蘇生を指導する救命講習の実施、小学生を主な対象とした着ぐるみや紙芝居などを用いての防火・防災教室の開催、火災予防運動の時期に行う防火広報やホームページの作成といった広報活動など、ソフト面に重点を置いた活動を展開しています。

また、平成23年4月1日より消防団員の条例定数が増員されたことを受け、女性消防団員の募集PRに力を入れています。

年齢も生活環境も様々ですが、皆で力を合せて仲良く楽しく活動しています。

女性消防団員になると、次のようなメリットがあります。

- 同じ目標を持つ仲間ができる
- 規律や礼節などの消防訓練礼式を学べる
- やりがいと充実感がある

地域を災害から守るために、私たちと一緒に活動しませんか？



消防・救急・地域防災フェア開催

平成23年9月11日、第一分団、第二分団、第三分団は、第一分団（潮田洋二分団長）が中心となり川越市立川越小学校において川越地区消防局などの協力のもと「消防・救急・地域防災フェア」を開催しました。

今回で3回目のフェアには、近隣にお住まいの300名を越える多くの方が来場され、放水体験、煙中避難訓練、女性消防団員による応急手当・AED訓練などの各種体験が行われました。

参加された方の年齢層は幅広く、子供達は、子供用防火衣を着用しての放水体験、はしご車の搭乗体験など、普段間近で見ることのできない消防車を前に目を輝かせていました。また、東日本大震災以降、市民の皆さまの防災に対する関心が一層深まっていることが感じられました。

川越市消防団の各分団は、管轄区域を中心に防災・減災を図るために積極的に地域に密着した活動を展開しています。



AED訓練



応急担架の作成



紙芝居



子供用防火衣を着用



放水体験

団員紹介

川越市消防団では、川越市内に在学する学生や在勤の社会人も、団員になることができます。大学生でありながら、消防団員としても活躍する2人を紹介します。

【霞ヶ関分団 小椋 悠太郎】

消防士を目指す学生である私は、何か社会に貢献したいという気持ちから消防団に入団しました。

防災訓練や操法大会、災害時の現場活動など思っていた以上に大変なこともありますが、自分や家族が周りの方々に助けられていることを実感し自分も恩返しができるよう日々努力しています。



【団本部 高橋 真理子】

大学生活とアルバイト以外に何かしたい、自分にできる活動はと考えていたところ、友人から誘われ、当初は軽い気持ちで入団しました。

大変なこともありますが、普通の生活では体験できない事ができ、多くの人と関われる場所です。

今では入団して本当に良かったと思っています。

私たちと一緒に消防団活動をしてみませんか？

問い合わせ：消防局総務課 消防団担当 TEL222-0741

川越市消防団

検索

